

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 23 日現在

機関番号：23401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2016

課題番号：26770113

研究課題名(和文)21世紀米国が探求する19世紀アメリカのナショナル・ナラティブ研究

研究課題名(英文)A Study on the 19th century's National Narratives Pursued by 21st United States Society

研究代表者

浜本 隆三 (Hamamoto, Ryuzo)

福井県立大学・学術教養センター・講師

研究者番号：00583311

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、21世紀アメリカでベストセラーを記録したマーク・トウェインの自伝『マーク・トウェイン 完全なる自伝』のとくに第1巻を取り上げて、なぜベストセラーとなったのか、21世紀の社会はトウェインの自伝になにを求めていたのか、明らかにするものである。結果、Amazonの同書に寄せられた400件ちかいいレビューなどの分析を通して、同書がトウェインの個人的な自伝としてではなく、トウェインの目を通して見た19世紀社会を描いた書籍として受け入れられていた点を明らかにした。このように受け止められた理由として、同書が筆記ではなく、口述筆記によって執筆されていた点を指摘し、その背景と意義についても考察を加えた。

研究成果の概要(英文)：This study is focused on the reason why Autobiography of Mark Twain published in 2010 had got so enormous reputation in this 21st century as to be listed on the top of New York Times' best seller's list. As analyzing more of 400 reviews devoted to the book in Amazon.com, most of the contemporary readers received this book not a book of Mark Twain's personal records but a kind of book which records living history observed by Mark Twain. My study points out the reason of this reception in the way called "autobiographical dictation."

研究分野：アメリカ文学

キーワード：マーク・トウェイン 自伝

1. 研究開始当初の背景

2010年に出版された19世紀米国人作家マーク・トウェインの自伝、『マーク・トウェイン 完全なる自伝』(AMT)第1巻は、全736頁の大部にもかかわらず『ニューヨーク・タイムズ』紙のベストセラーズ・リストにおいて初登場で2位の座に輝き、1年余りで80万部を売り上げ話題となった。同書は、トウェインが自伝として口述筆記した遺稿を執筆年ごとに整理したものである。2010年末に全3巻のうち第1巻が出版されたばかりで、まだ日米いずれにおいても研究は極めて初期の段階にある。

2. 研究の目的

申請者はAMTの翻訳プロジェクトの一員として、4名の研究者と翻訳作業にあたり、柏書房より『マーク・トウェイン 完全なる自伝 第1巻』として2013年6月に出版した。翻訳作業と合わせて、共訳者が所属する日本マーク・トウェイン協会の関西支部では、2010年より同書の輪読・研究を月例で進め、これまでに合計32回の研究会に携わってきた。また日本マーク・トウェイン協会主催による日本で初めてのAMTをテーマとしたワークショップ「マーク・トウェインの『自伝』第一巻を読む」での研究発表や、2013年8月に米国エルマイラ大学で開催された国際トウェイン学会でも研究発表を行い、研究をすすめてきた。

このような経緯のもと、本研究の目的は、AMTについて、その内容を整理・データベース化し、21世紀の米国においてなぜ同書がベストセラーとなったのか明らかにするとともに、21世紀米国社会を知る資料としてAMTを分析する点に定めた。

とりわけ、日米の研究者がみなAMTをトウェイン研究の基礎資料と考え、研究の成果を主にトウェイン研究へと還元しているなかで、申請者はこれまで、口述筆記された自伝というAMTの特質を重視して、この資料の特質について考察をめぐらせた。

3. 研究の方法

AMTの内容の把握・整理を行い、その分析を行う。その際、データベースを作成して、横断検索を可能にすることで、膨大なAMTの全体像を俯瞰しながら、研究をすすめていく。同時に、AMT執筆に関わる関係資料について、フィールドワーク等を変えながら、背景の把握に努める。成果は適宜、学会や論文として発表することで、研究内容についての意見を広く集めるとともに、成果の社会還元を行うよう予定していた。

4. 研究成果

まず、21世紀米国でAMTがいかに受容されていたか、解明するためにAmazon.comの同書の書評に寄せられた400件ちかくのコメントを分析した。その結果、AMTは21世紀のアメリカにおいて、トウェインの人生を知る資料としてではなく、トウェインの経験を通して19世紀を知る資料として、受け入れられていた点が明らかにされた。この成果は、2014年1月に「自伝をめぐる『過去』と『現在』」と題して、日本アメリカ文学会 関西支部例会にて報告を行った。(研究期間開始前に相当するため、下記成果には含めていない)

この成果を踏まえて、さらに21世紀のアメリカ人がAMTの何に関心を寄せていたか分析をすすめた。面白いことに、上記のコメントのなかには、Amazon.comのキンドル版で同書を読んだ人から、まるでブログのように読み進めることができた、というコメントが複数寄せられていた。このほか、とくに同書が形式張った文学作品としての自伝というよりも、連想の輪が広がるように話が展開していく点に魅力があるというコメントが複数寄せられていた。

この点を踏まえ、AMTのなにが上記のような特質となっているか分析したところ、AMTが口述筆記されている点に、同書の最大の特質がある、と分析した。確かに、AMTは口述筆記されているために、通常の自伝のような「硬さ」はない。気軽にどこからでもページをめくることができる。また、連想が輪となって広がっているのも、口述筆記という特質の影響と考えられる。

では、トウェインはなぜ、口述筆記を導入したのか。いつから口述筆記を開始したのか。口述筆記の開始は、ちょうどトウェインが幼少期を過ごしたクオールズ農場での体験を物語った箇所のと、開始されている。したがって、トウェインがAMTを口述筆記した理由を探るためには、この節目を考察する必要がある。この点については、"Quarles Farm Episodes" as a Turning Point of Writing Autobiography と題して、2015 Mark Twain Conference, Hannibal, Mo で研究発表を行った。

クオールズ農場の経験を筆記した部分を詳細に分析した結果、トウェインが同農場での経験を執筆するに際して、筆記ではかなりの限界を感じていたのではないかと、という点が明らかになった。すなわち、良き思い出であるクオールズ農場での経験を物語るには、つぎつぎとよみがえる記憶に追いつくような、筆記スタイルが求められたわけである。これを実証的に検証するために、クオールズ農場について記した箇所における文体を分析した。

結果、「私は思い出せる」もしくは「私はそれを思い出せる」、「私の眼には～が見える」や「私には～が聞こえる」、「私は～を思い出す」または「私は～感じる」という

フレーズは45回も多用され、「私は～を知っている」と語る文は23回も連続していた。そして、これらの内容は視覚、嗅覚、聴覚、味覚と、五感に関わる記憶に分類できる点を明らかにした。以上の内容は、「Mark Twainの『自伝』にみる記憶に刻まれた風景」と題して、エコクリティシズム研究学会で報告し、その内容をさらに整理したうえで、「マーク・トウェインの『自伝』にみる記憶に刻まれた風景」として『エコ・クリティシズム・レビュー』第8号に投稿した。

この成果をふまえて、21世紀の米国との関係を考察するために、あらためて同書に寄せられたレビューを分析したところ、とくにトウェインの自伝が描く「西部」や「牧歌」に読者が魅了されている部分があることがみえてきた。これを踏まえて、トウェインと西部との関係を考察し、その成果を「相対化の源流：西部とトウェインのものの見方」と題して日本マーク・トウェイン協会第19回大会において発表した。その内容に修正をくわえたうえで、「相対化の源流：西部とマーク・トウェインのものの見方」として、『マーク・トウェイン 研究と批評』第15号に投稿した。

トウェインと西部との関係をふまえつつ、アメリカにおけるパストラルの系譜について考察を広げた。トウェインと自然観については、「彼岸なきハックのダンス・マカーブルー19世紀進化思想の自然観とマーク・トウェイン」と題して、『文学から環境を考える：エコクリティシズム・ガイドブック』（勉誠出版）に寄稿した。また、同研究のうち、進化思想と善悪についての関係をふまえつつ、トウェインにとっての善悪観について「ギルデッド・エイジと善悪の彼岸：マーク・トウェインの『ハドリバークを墮落させた男』における『赦し』の構図』」として考察し、『ニージェ+』（ふくろう出版）に寄稿した。

そもそも、トウェインが口述筆記を開始したクオールズ農場もパストラルの典型といえる。ポール・アルパースは、パストラルが「黄金時代、無垢、ノスタルジア」とともに想起されると指摘している。確かに21世紀にAMTが受容された背景にも、AMTが19世紀米国の「黄金時代、無垢、ノスタルジア」を物語るものとして想起されたことも指摘しておきたい。この点は、「マーク・トウェインの自伝に描かれた風景とミシシッピ・パストラリズム」と題して、『エコクリティシズムの波を超えて 人新世の地球を生きる』（音羽書房鶴見書店刊）に採録が決定している。

なお、当初予定していたデータベースの作成については、AMTの第3巻目の出版が遅れたこと、また、転任にともない、研究環境が変わったこともあり、今回は作成できなかった。ただ、研究の進展に際しては、分析の焦点が絞られたために、におおきな影響はなかった。

また、本研究課題とは直接かかわるものではないが、研究を遂行するうえで、クー・クラックス・クランとアブサンについての研究および翻訳作業は、本研究の歴史的・社会的背景を把握するうえでも、おおきく役立った。研究の遂行に資した成果として、合わせて報告しておく。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

浜本隆三「マーク・トウェインの『自伝』にみる記憶に刻まれた風景」『エコ・クリティシズム・レビュー』第8号(2015) pp. 51-56 (査読なし)

Ryuzo, Hamamoto 「Laugh! But Solemnly: The Humor and Death in *The Innocents Abroad*」、『関西マーク・トウェイン研究』第3号(2015) pp. 53-62 (査読あり)

浜本隆三「相対化の源流：西部とマーク・トウェインのものの見方」『マーク・トウェイン 研究と批評』第15号(2016) pp. 26-33 (査読なし)

浜本隆三「第二期クー・クラックス・クランの組織拡大における『ザ・クランズマン』および『国民の創生』の影響 オレゴン州における1905年から21年までの新聞記事の分析を通して」『情報文化研究』12号(2017) pp. 106-117 (査読あり)

〔学会発表〕(計4件)

浜本隆三「Mark Twainの『自伝』にみる記憶に刻まれた風景」エコクリティシズム研究学会(於神戸市外国語大学、神戸市) 2014年8月。

Ryuzo, Hamamoto "Quarles Farm Episodes" as a Turning Point of Writing Autobiography, 2015 Mark Twain Conference, Hannibal, Mo (Hannibal-La Grange University, USA), 2015年8月。

浜本隆三「相対化の源流：西部とトウェインのものの見方」日本マーク・トウェイン協会第19回大会(於同志社大学、京都市) 2015年10月

浜本隆三「白人至上主義結社KKKの盛衰」情報文化研究会(於国学院大学、東京都)

第 51 回、2016 年 7 月

〔図書〕(計 6 件)

小谷一明編、浜本隆三他『文学から環境を考える：エコクリティシズム・ガイドブック』勉誠出版、2014 年。(135-53)

浜本隆志編、浜本隆三他『欧米社会にみる集団妄想とカルト症候群 少年十字軍、千年王国、魔女狩り、K K K、人種主義の生成と連鎖』明石書店、2015 年。(169-89 / 267-91)

溝口隆一編、浜本隆三他『ニーチェ + 』ふくろう出版、2016 年。(55-84)

浜本隆三『クー・クラックス・クラン：白人至上主義結社 K K K の正体』平凡社新書、2016 年。(全 224 頁)

塩田弘編、浜本隆三他『エコクリティシズムの波を超えて 人新世の地球を生きる』音羽書房鶴見書店、2017 年(97-108)

バーナビー・コンラッド三世 (浜本隆三訳)『アプサンの文化史 禁断の酒の二百年』白水社、2016 年。(全 255 頁)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

福井県立大学 学術教養センター 講師

浜本 隆三 (Hamamoto Ryuzo)

研究者番号：00583311

(2) 研究分担者
なし ()

研究者番号：

(3) 連携研究者
なし ()

研究者番号：

(4) 研究協力者
なし ()